

高校野球青森大会

Dブロックに県南8校 53チーム聖地目指す

第103回全国高校野球選手権青森大会(7月13日開幕、青森市ダイシンベースボールスタジアムほか)の組み合わせ抽選会が29日、同市の青森県総合社会教育センターで行われ、出場53チームの対戦相手が決まった。昨秋、今春は連続県大会3季連続制覇を目指す八学光星は、2回戦で「東奥学園・青森東」の勝ち対戦。今春の県大会準Vの工大一は、明の星・大湊の勝ち、今春の選抜に続き季連続甲子園出場を目指す八戸西は、木造・八戸の勝ち対戦で激突する。日程が順調に進めば、決勝は26日、ダイシンで行われる。

▲Aブロックは八学光星と1回戦を突破すれば鹿角と春季県大会8強の弘学連璧ぶつかる。Bブロックは春を中心に争い、春季地 季県大会4位の工大一や同区大会で青森山田に上つて8強の五所川原、弘前東なけるなど力がある青森は、弘前地区勢の争い。三

春の4強が闘志
 ○：トーナメント表の四隅に入った春季県大会上位4チームの主将は緊張の面持ちで、くじ引きの行方を見守った。

春準Vの工大一・澤口仁善主将は「ここ最近甲子園から遠のいているが、まずは上を見過ぎずにプレー。でも春に敗れた(八学)光星には苦戦したい」と静かに闘志を燃やした。同3位の東奥・山内雄斗主将は「緊張とわくわくする感じが入り交じっている。先を見ず、一戦必勝」と意気込んだ。同4位の工大一・濱道輝太主将は「組み合わせが決まってホッとした。周りは強いチームばかり」と張り切っていた。

光星「粘り強く戦う」
 ○：春季県大会覇者としてトーナメント表の「1」に入った八学光星。次々に対戦カードが決まる様子を見ていた吉川真一主将は「本番に向けてさらに引き締めないといけないと思っただけ。さっぱり。昨夏の代替大会は決勝でライバルの青森山田に敗れたという吉川主将は「負けを悔しそーにしていたのが、目に焼き付いている。今大会は今年ぶり11度目

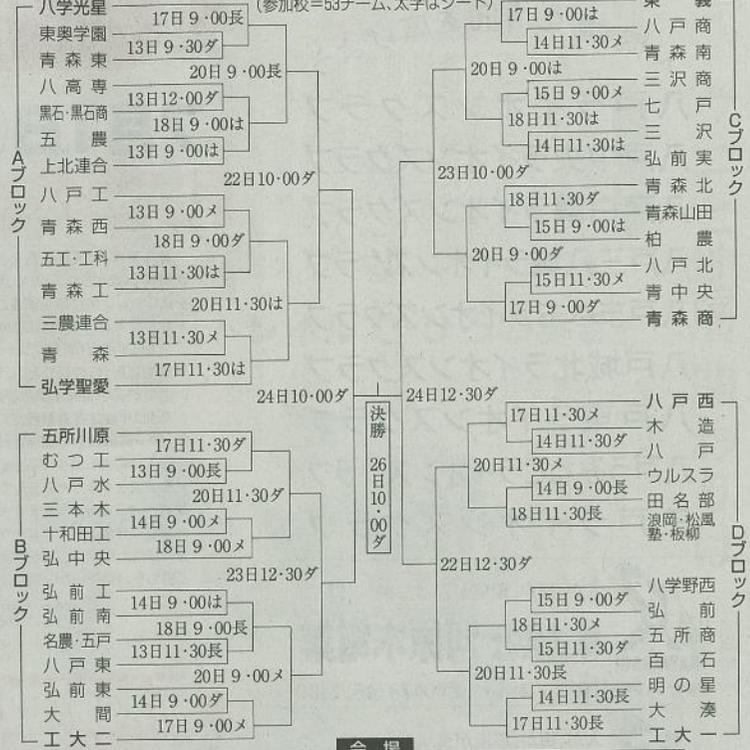
の甲子園出場を狙う。勝利の夏へ向け粘り強く戦い、優勝すると決意を示した。

八西「一戦必勝」
 ○：今春のセンバツに県勢初の21世紀枠で出場した八戸西は、第2シードの工大一同じブロックに入った。宮崎一騎主将は「相手が決まったので、これからは実戦を意識した練習に取り組んでいく」と気を引き締めた。

初戦の相手は「木造・八戸」の勝者だが、どちらも夏の甲子園への出場経験がある。八戸西にとって夏の頂点は悲願だ。宮崎主将は「春は自分たちだけの力で甲子園に行けたわけではない。夏は一戦必勝で緊張感と意欲をみなぎらせた。

「感謝の気持ち」
 ○：開始式の選手宣誓役には30チームの主将が並ぶ。三木木の本木が引き当てる。志願理由について、八戸主将は「世の中が暗いイメージばかりなので、明るい光になり、多くの人の心を少しでも動かしたいと思った。大会が開催できることには(コロナ禍の中)とてもうれしい。宣誓の内容には(コロナ禍の中)感謝の気持ちを込めた」と話していた。

第103回全国高校野球選手権青森大会組み合わせ



会場
 夕：ダイシンベースボールスタジアム(青森市営)、は：はるか夢球場(弘前市営)
 長：八戸市長根球場、メ：メイプルスタジアム(六戸町)
 【連合チーム】 上北連合：六戸・六ヶ所・野辺地、三農連合：三農・三農恵拓